

第2章 想定地震の被害概要

千葉県北西部直下地震の被害想定結果概要は下表のとおりです。

表 想定地震の被害概要

千葉県北西部直下地震				
想定地震	地震の規模及びタイプ等		規模	マグニチュード7.3
			タイプ	プレート内部
			震源の深さ(破壊開始点の深さ)	約50km
			震度分布	千葉県北西部の千葉市、習志野市、船橋市、市川市などを中心に震度6強の地域が広がり、震度6弱以上の地域は県土の約40%。震度7の地域はない。
物的被害	建物被害		全壊・焼失棟数	約81,200 棟
			半壊棟数	約150,700 棟
	施設 交通	緊急輸送道路	被害箇所	約2,600 箇所
		港湾施設	港湾岸壁の被害箇所数	57 箇所
	ライフライン	電力	供給能力(ピーク時に対する割合)	約51 %
		都市ガス	停止戸数	約479,000 戸
		LPガス	機能障害世帯数	約82,100 世帯
		上水道	機能支障人口	約2,500,400 人
		下水道	直接影響人口	約184,600 人
	人的被害	死者数	揺れ(倒壊等)	約660 人
急傾斜地崩壊			約10 人	
火災			約1,400 人	
ブロック塀等の転倒ほか			約30 人	
小計			約2,100 人	
重傷者		揺れ(倒壊等)	約3,000 人	
		急傾斜地崩壊	— 人	
		火災	約660 人	
		ブロック塀等の転倒ほか	約430 人	
		小計	約4,100 人	
軽傷者		揺れ(倒壊等)	約18,600 人	
		急傾斜地崩壊	約10 人	
		火災	約1,700 人	
	ブロック塀等の転倒ほか	約690 人		
	小計	約21,000 人		
死傷者数合計			約27,200 人	
避難者数		1日後	約298,300 人	
		2週間後	約806,600 人	
		1ヶ月後	約507,900 人	

千葉県北西部直下地震			
人的被害	帰宅困難者数 (昼12時)	県内で帰宅困難者となる人	約736,400 人
		県外で帰宅困難者となる県民	約741,000 人
		合計	約1,477,000 人
	自力脱出困難者数(冬5時)		約9,100 人
エレベーター停止台数		約2,500 台	
経済被害額	直接	建物 住宅、家財、償却資産、棚卸資産	約7.13 兆円
		ライフライン 電力、通信、都市ガス、上・下水道	約0.47 兆円
		交通施設 道路、鉄道、港湾	約0.39 兆円
		その他公共土木施設	約0.15 兆円
	直接経済被害額合計		約8.14 兆円
	間接	間接経済被害額合計	約1.51 兆円
経済被害額合計		約9.65 兆円	
その他	震災廃棄物	重量	約8,353,200 トン
		体積	約7,789,300 m ³

※1 地震による被害は、季節・時間や気象条件により大きく変わる。県では、①冬の5時、②冬の18時、③夏の12時の3ケースを想定し、さらに風速①4m/s、②8m/sのケースを想定して被害想定調査を実施した。この表の算出条件は、特に記載のない場合は冬の18時、風速8m/sとしている。

※2 シミュレーションには、技術の限界やデータの偏りがあることから、誤差を含むものである。

【参考】房総半島東方沖日本海溝沿い地震津波の被害想定結果概要

房総半島東方沖日本海溝沿い地震			
想定地震	地震の規模及びタイプ等	規模	マグニチュード8.2
		タイプ	プレート境界
		震源の深さ(破壊開始点の深さ)	約25km
人的被害・建物被害	建物被害	全壊棟数	約2,900 棟
		半壊棟数	約6,700 棟
	人的被害(死者)	逃げない場合※3①	約5,600 人
		すぐに逃げた場合※3②	約10 人
その他	震災廃棄物	重量	約1,295,200 トン
		体積※4	約976,000~約1,197,100 m ³

※1 東北地方太平洋沖地震(2011)の震源域南側の日本海溝沿いにおける地震による津波の発生が危惧されたことから、銚子沖から南側の海域で発生する「房総半島東方沖日本海溝沿い地震」(M8. 2)による津波の被害を想定した。なお、この地震は陸域から十分に離れていること、ほぼ同じ海域を震源とした延宝地震(1688)が津波地震(大きな揺れを伴わない地震)であったことから揺れによる被害は算出していない。

※2 最大津波高8.8m(銚子市)

※3 ①すぐには避難しない+避難しない場合、②津波発生直後に避難を開始した場合

※4 津波堆積物の体積換算については、乾燥程度で異なるため、幅のある結果となっている。